

気付きから支えあいへ 支援の目から漏れる人をなくしたい

問い合わせは
社会福祉法人 京都市右京区社会福祉協議会
〒616-8105 京都市右京区太秦森ヶ前町22-3
TEL.(075)865-8567 FAX.(075)865-8569
右京区の福祉情報をもっと知りたい方は
右京区社協 検索 <http://www.ukyoku-syakyo.net>
E-mail : info@ukyoku-syakyo.net
京北事務所 〒601-0251 京都市右京区京北周山町下寺田1-1 TEL.(075)852-0527



2012年4月に作成された西京極の水災害マップ



安否確認も兼ねる寝具クリーニングサービス事業



「食」を通じての訪問と見守り活動。配食サービス事業



来る人を出迎えてくれる手作りの看板も学区の個性が光ります



男性の参加率が高いのも喫茶型サロンの特徴です



喫茶型サロンでは焼きたてのトーストの香りが部屋に広がります



高まる地域の見守り意識 『地域ぐるみ』それが社協の見守り活動

自分たちの暮らす地域の中で潜在化する福祉課題への気付きを促しながら、孤立しがちな人を地域で見守り、支えていこうとする取組が広がっています。

「防災」を切り口に、地域で配慮を必要とする人（要配慮者）をいかに迅速に把握し、支援へとつなげていくかということについて、西京極学区では、福祉マップづくりや福祉救援ボランティア登録が始まり、嵯峨学区では、避難所運営訓練などの平常時から災害時に備えた取組が積み重ねられています。

福祉マップや台帳、小地域活動による絆づくり

孤立しがちな人を把握するため、地域では様々な手法を使った見守り活動が進められています。

自治連と社協とが連携して単身高齢者マップを作成する安井学区。西院第二学区や嵯峨野学区では担当の民生委員が誰なのかわかるように担当者の名前を地図に落とし込んだ福祉マップを作成するなど、住民の目線に立った福祉マップが住民に配布されました。

福祉マップを受け取った住民からは、「(自分の身に)何かあったときに相談できる人が近くにいてくれることがわかって安心です」との

声も寄せられています。

社協と自主防災会等が連携し、毎年台帳を更新する南太秦学区では、孤立死の早期対応が速やかな連携で地域に一つの安心感をもたらしています。

また、葛野学区では、配食活動を中心に、「食」を通じた安否確認を定期的に進めています。

社協の強みを活かす地域ネットワークの強化

西京極学区の地域ケア会議では、社協と民生委員が参加するなか、学区内を一目で把握できる大きな福祉マップを広げて、高齢者が多い地域を色付けしながら、関係機関とともに一人暮らし高齢者を見守る仕組み

について話し合われました。

これらの地域で把握する情報は、福祉台帳として、平常時の見守り活動に活かされています。

学区社協は諸団体と連携し、地域の福祉活動を進めています。紹介事例のように、民生委員や自治連合会、自主防災会など、多くの構成団体が地域ネットワークとして各々の機能をいかした見守り活動を押し進めることは、支援者の目をより多くの人に届けるために何よりも重要なことです。

様々な手法を用いることで、住民への啓発とさりげない見守り活動につなげ、支援の目から漏れる人をなくしていきたい。

「地域ぐるみ」、それが社協の見守り活動です。



「これまで地域とのつながりが少なかった人にこそ来てほしい」と笑顔で出迎えます。

「仕事などで多忙な人も参加しやすい日」、「趣味の活動や施設利用などで参加する人は限られてしまうので、休日の朝なら参加しやすい」と、南太秦学区では日曜の朝に2009年12月から小学校の教室を会場に、トーストや飲物を提供する喫茶型サロン「ふれあいサンデーモーニング」を開設。17団体が気軽に集える居場所づくりを支えています。御室学区の喫茶サロンでは、「近所でお見かけする方々ばかりなので落ち着きます」と参加者は話されます。

サロンに関わるすべての人が主人公になれること、自分たちの存在をお互いに感じあうこと、そんな居場所に自然と笑顔があふれてきます。

地域の社会資源が生きる

「(今の会場に行くには)家から少し遠くて行きにくい。もう一つ増やして欲しい」というサロンに来られる高齢者の声を受けて、西京極学区では、6月から地域の高齢者施設「花友にしこうじ」で2か所目の喫茶型サロンを始めました。

山ノ内学区では、乳幼児を抱える親御さんたちのおしゃべり場「かるがもカフェ」を、地域密着型サービスセンター「welcomeやまの家(うち)」で開設。広沢学区でも社協と民生委員が協働し、小規模多機能施設「嵐山寮ひろさわ」で喫茶サロン「そわか」を運営するなど、福祉施設との連携・協働による居場所づくりがすそ野を広げつつあります。

豊かなコミュニケーションを-集合住宅の取組-

「マンションで暮らす住民同士が顔の見える場をつくりたい」、「集合

住宅で暮らす高齢者の孤立を防ぎたい」と、「西京極大門ハイツ」でも住民による「サンデーモーニング」が契機に子ども活動やエコ活動など幅広く豊かなコミュニケーションが育まれています。

また、葛野学区の「ハイラーク西京極」でも、同様の活動が進み、マンション近隣の単身高齢者にも参加を呼び掛けています。居場所を立ち上げた関係者は「外出を控え室内で過ごすお年寄りも多い。玄関から出てきてみんなで楽しい時間を過ごしてほしい」と話されます。

喫茶型サロン実施学区

南太秦、太秦、西京極、御室、宇多野、山ノ内、西院第二、嵯峨野

集合住宅におけるサロン ※カッコ内は所在地

西京極大門ハイツ(西京極)、ハイラーク西京極(葛野)

地域と施設との協働による喫茶型サロン実施学区 ※カッコ内は協働する施設名

広沢(嵐山寮ひろさわ)、西京極(花友にしこうじ)、山ノ内(welcomeやまの家)



近年、孤立を防ぐ取組や絆づくりに多くの人の関心が集まっている中、区社協では、身近な地域で人と人がつながる拠点になる居場所づくりを応援しています。住民同士が気軽に集まれる居場所づくりなど、お気軽にお問い合わせください。